



## 第1回「SBI FinTech コンソーシアム」レポート

2016年5月19日にホテルニューオータニにて、SBIグループ主催の「SBI FinTech コンソーシアム」を開催しました。

1996年の日本版金融ビッグバン以来の大きな変革期にある金融分野において、互いに連携を強め、顧客満足度の高いサービスの提供、更には日本独自の新しいFinTechサービス・技術の海外展開の加速を目指すことを目的とした本イベントには国内外の30社を超えるFinTech企業ならびにSBIグループ各社の代表が参集致しました。

第1回目の本イベントでは、米国RippleのChris Larsen氏(Co-founder and CEO)の基調講演や、FinTechの主テーマである「ブロックチェーン」・「決済」・「ビッグデータ」の3分野に関するパネルディスカッションを行ないました。

イベントの最後には懇親会を実施し、参加者同士で活発な意見交換や具体的な連携の話も生まれ、日本発のグローバル展開可能なFinTechサービス構築の可能性を感じられる機会となりました。

基調講演 Chris Larsen 様 (Ripple Co-founder and CEO)



Ripple の CEO、Chris Larsen 様からは、時代の変化に合わせて、国際送金のプラットフォームも進化する必要があること、およびリップルの可能性について話がありました。概要は下記になります。

「Amazon や UBER、Airbnb を始めとしたグローバルインターネット企業の誕生により、国際間でのお金や物のやり取りが急速に広がっている。更に 2020 年には 500 億個の IOT 機器がネットに接続される見込みもあり、マイクロペイメント (少額送金) の市場規模は急速に広がっていく。そのような中、大規模なトランザクションを瞬時に低コストで小ロットから処理することの出来る決済・送金インフラが求められている。一方で、バッチ処理に代表される既存の国際送金システムは、コストが高く処理にも時間がかかる。国際送金の市場は競争もなく、技術革新が起きていない。リップルは、それらの課題を解決するために開発を進めている。コンテナの発明により物流に革命が起こり、インターネットにより情報の流通に革命が起こった。

リップルが提唱する”インターレジャー”は金融システムを繋ぐための仕組みであり、それにより実現される”Internet of Value”は金融のゲームチェンジャーになると確信している。」

パネルディスカッション (①ブロックチェーン、②決済周辺、③ビッグデータ)

【テーマ①: ブロックチェーン ~ブロックチェーン・分散レジャーは金融機関の課題解決に有効か?~】

●パネリスト:



Richard Brown 様	仲津 正朗 様	Richard Yun 様	加納 裕三 様	Chris Larsen 様
R3 CEV LLC CTO	株式会社 Orb 代表取締役 CEO	Coinplug Inc COO	株式会社 bitFlyer 代表取締役	Ripple Co-founder and CEO

●モデレーター：SBIホールディングス株式会社 ブロックチェーン推進室長 藤本 守

ブロックチェーンをテーマにしたパネルディスカッションでは、1)ブロックチェーン・分散レジャーは金融機関の課題解決に有効か？、2)どのようなターゲットがあり、その効果を得るまでにどれ位時間がかかると見ているか？ということについてディスカッションが行われました。

有効かどうかについては各社ともに「有効だ」と答えられましたが、ターゲットや時間については見解が分かれまして。Ripple CEOのChris Larsen様からは「議論の段階は2015年まで。2016年からは実証の段階。スイフトの仕組みもスタート当初は難航したが、ある程度の銀行が参加した後は急速に普及していった。ブロックチェーンについても2017年以降、急速に普及していくと考える」との話がありました。



(株)Orbの仲津社長からは「当社としては仮想通貨をメインのユースケースに考え事業を展開している

る。新しい仕組みであるため幅広い分野の開発が必要となるが、ベンチャー企業として常に経済性及び収益化を常に意識しながら、ターゲットを絞って事業を展開していくようにしている。時間は3~5年かかる。」との話がありました。韓国でブロックチェーンやBitcoin領域で事業を展開するCoinplug COOのRichard Yun様からは「韓国は政府の後押しもあって、電子認証分野におけるブロックチェーン技術の活用が進む見込み」との話がありました。また、Bitcoinの特徴なども踏まえながら、R3 CTOのRichard Brown様からは「BitcoinはValidationのスピード・コストの問題から金融機関の課題解決には向かない。R3における金融機関との取り組みによりあと1-2年で大きな成果が得られると思う。」、(株)bitFlyer加納社長からは「ブロックチェーンは金融機関間のトランザクション処理に適している。」との話がありました。

【テーマ②： 決済周辺 ～決済の未来について～】

●パネリスト：



丸山 弘毅 様	長谷川 潤 様	鷹取 真一 様	都木 聡 様	佐藤 航陽 様
株式会社インキュリオン 代表取締役	Omise Holdings Pte Ltd CEO	株式会社 Kyash 代表取締役 CEO	株式会社セレス 代表取締役社長	株式会社メタップス 代表取締役

●モデレーター: SBI Ripple Asia 株式会社 代表取締役 沖田 貴史

ネットやリアル、仮想通貨、決済ソリューション提供など、決済に関わる領域において様々な視点から事業を行なっている各社ですが、共通していたのは決済というポジションから顧客(個人、法人)のビッグデータを構築する方向に力点を置いている点でした。

(株)メタップスの佐藤代表からは「ビッグデータを構築できれば、その先のマネタイズ方法は多様な選択肢がとれる。決済ビジネスの一番面白い部分はビッグデータの活用である」との意見がありました。また、「従来の決済ビジネス部分は競争環境が激しくなっており、利益幅が減少している。トランザクションレンディングについては新たなビジネスとして注目している」との話が複数出ていました。(株)セレスの都木社長からは「FinTech で技術革新が進みトランザクションコストが下がってくるとマイクロペイメントなど今まで採算が合わなかったサービスが普及していく可能性がある」、(株)Kyash 鷹取社長からは「個人間送金の事業は可能性を感じており、開発を進めている」との話がありました。(株)インキュリオン丸山社長からは「決済ビジネスを展開している会社は、加盟店側か消費者側かどちらかに寄って事業を展開しているのが大半。当社は、幾つかのサーズを通じて加盟店側も消費者側も両方リーチしており、トータルでサービスを設計できる点を強みとしていきたい」との話がありました。



また Omise の長谷川社長からは、「若い人口が多く、市場成長著しい東南アジア各国において決済部分で大きなシェアを取ることは、大きな事業となる可能性を有している。その点でひとつの決済ソリューションで多国展開できるサービスを武器に事業を展開していきたい」との話がありました。

【テーマ③: ビッグデータ ~ビッグデータを活用した新ビジネスについて~】

●パネリスト:



岩井 裕之 様	網野 知博 様	佐々木 大輔 様	辻 庸介 様	中村 崇則 様
かっこ株式会社 代表取締役	株式会社ギックス 代表取締役 CEO	freee 株式会社 代表取締役	株式会社マネーフォワード 代表取締役社長 CEO	株式会社ラクス 代表取締役

●モデレーター: 住信 SBI ネット銀行 FinTech 事業企画部長 吉本 憲文

当日は「金融機関の保有するデータに本当に価値があるのか」、「ビッグデータを活用した新ビジネスについて」という視点でディスカッションを実施しました。

前者については、価値があるとの見解を示した方が大部分でしたが、一方で「まだまだ現金主義の日本においては顧客全ての購買行動をデータとして把握することが困難であり、金融機関の保有するデータだけではなく、外部のデータも上手く組み合わせてサービスを構築する必要がある」との意見が複数出ました。

後者の「ビッグデータを活用した新ビジネスについて」という論点については、2016年3月25日に発表した住信SBIネット銀行のAPI接続サービス開始は、日本におけるエポックメイキングであるとの意見が聞かれました。この様に今後金融機関がAPI接続を外部に開放していくことで、他分野でみられるように様々なサービスやアプリケーションが生まれてくるとの見解でした。

またビッグデータを活用したFinTechサービスが進めば進むほど、セキュリティの重要性が増していくことも共通認識として持たれていた様に感じました。



## まとめ

今回のイベントでは FinTech の最前線で日々新たな挑戦を続けている各企業の方々から、活きた意見や中長期的なビジョンをお聞きすることが出来、改めて今後金融分野は大きく転換していくとの実感を得られました。

またイベント後の懇親会では FinTech 企業同士の意見交換も活発に行なわれ、新たなサービス展開や連携イメージを持たれた企業が多数ありました。

SBI グループとしてもブロックチェーン技術の中核とし、様々な FinTech 企業と革新的な金融サービスを共同で開発し、多くのお客様に提供していくことを目指しております。さらに、SBI インベストメントが運営する FinTech ファンド出資者とも連携をさせて頂くことで今般の FinTech の勃興を一過性のものではなく、日本の主力産業として根付かせていく考えであります。